

しろやぎさんからの手紙

病児の保育しろやぎさんのポシエット

2021年4月 NO.57

春です。ここのところのポカポカ陽気で花壇のお花が見頃を迎えています。新年度が始まりました。新しい環境にちょっぴり緊張気味のお友だちもおられます。コロナ禍でも工夫して、元気に楽しく春を満喫したいですね！

《マスク、ちゃんとつけられるかな？》

今年は花粉症の季節が終わってもマスク生活が続きます。色々なマスクがあって、新型コロナウイルスの感染対策に、どれを選んだら良いのか迷ってしまいますよね。

■ マスクやフェイスシールドの効果 (スーパーコンピュータ「富岳」によるシミュレーション結果)

対策方法	マスク	フェイスシールド	マウスシールド	なし		
						
	効果:大	効果:大	効果:大	効果:大	効果:大	効果:小
吐き出し飛沫量	20%	18-34%	50% ^{※2}	80%	90% ^{※2}	100%
吸い込み飛沫量	30%	55-65% ^{※2}	60-70% ^{※2}	小さな飛沫に対しては効果なし (エアロゾルは防げない)	100%	

※2 慶応義塾大学による実験値

咳エチケットにはガーゼマスクではなく不織布の使い捨てマスクの方が好ましいとされています。お子さんの顔に合ったサイズを選んであげることも大切です。きちんと鼻と口を隙間なく隠してあげられるものがベスト！ マスクはお鼻をカバーする道具です。



マスクのポイ捨てによる環境汚染が問題となっています。使い終わったマスクをきちんとゴミ箱に捨てることの大切さを子ども達に教えてあげてくださいね。マスクを外したその後はしっかりと手を洗うことも大切です。

《溶連菌感染症ってどんな病気？》

毎年4～5月は全国的に溶連菌感染症が流行します。溶連菌感染症はほぼ通年みられますが、特に春休み明けと夏休み明けに感染者が増加する傾向があります。

主に“のど”に感染して、咽頭炎や扁桃炎といった病気を引き起こすことが有名ですが、伝染性膿痂疹(とびひ)や感染誘発性蕁麻疹など、様々な疾患の原因菌として問題になります。

周りのお友だちの間で溶連菌感染症が流行している場合には注意が必要です。

症状としては発熱(38～39℃)・のどの痛み・頭痛・腹痛・倦怠感があげられます。必ずしも発熱を伴う訳ではなく、幼少児や大きなお子さんでは、発熱しないor 発熱しても

1日ですぐに解熱してしまうことがあります。溶連菌感染症は繰り返しかかることがあり、大人の方もかかりますが、大人では倦怠感やのどの違和感などの症状が主で発熱はみられないことが多く、感染したパパやママや保育士さんが知らず知らずに子ども達の感染源になっているケースもあるので注意が必要です。未就学児では“のど”の痛みや腹痛の症状を訴えることが難しく、食欲不振・嘔吐(食べたり飲んだりすると吐く)・下痢(1日5回以内)等の症状で見つかることがあります。感染早期には“のど”の発赤もない場合が多く、感染後一定期間を経過すると首筋などのリンパ節が腫れたり、舌にブツブツができたり(イチゴ舌)、体や手足に小さくて紅い発疹が出たり(猩紅熱)することもあります。風邪と違って咳や鼻水が出ないことも特徴の1つです。飛沫で感染してからだいたい2～5日の潜伏期間を経て発症します。

《検査とお薬 登園登校について》

のどのグリグリ検査で診断を確定します。治療には内服抗菌薬が用いられます。お薬を飲み始めると1～2日で症状が改善します。確実に溶連菌を退治し、重大な続発症(合併症)を引き起こさない為に、症状が消えても抗菌薬はしっかり飲みきる必要があります。一部の抗菌薬以外は1日3回5～10日間飲み続ける必要があります。お薬を飲み始めて2～3日経っても症状が良くならないときには再度医療機関を受診をしましょう。お薬(抗菌薬)を飲み始めて24～48時間以上経過して症状がなくなるまでは保育園や学校は出席停止になります。

《新型コロナウイルス 変異株》

新型コロナウイルスの変異型が各地で拡大しており、学校や保育の現場も対策を急ぐ必要があります。変異型の子どもへの感染割合は従来型を上回り、子どもの集団におけるクラスター発生のリスクが高まっています。

1人が何人に感染させるかを表す**実効再生産数**は、2月1日～3月22日の平均が**従来株の0.94**に対して**変異株は1.23**と1.32倍高い数字を示しています。

厚生労働省によると、3月30日時点で確認された**変異型感染者に占める10代以下の割合は23%**で、**従来型を含む全感染者に占める割合の9%**を上回っています。

依然として子どもの重症化リスクは低く、また、家庭内感染例の多くも親が家庭にウイルスを持ち込み、子どもが感染するという流れが圧倒的多数です。これは変異株が流行した場合でも変わらないと考えられています。変異型に感染した場合、現状では複数回のPCR検査陰性が確認されるまでは入院等の対応が求められます。通学できるようになるまでの期間が長くなる恐れがあり、学習などへの影響が大きくなることも危惧されています。

那珂キッズクリニック小児科では緊急性がある場合には院内のSmartGene(ミズホデー社)で新型コロナウイルスのPCR検査を行なっています。およそ1時間で結果が判明しますが、変異株であるか否かの判断はできません。

新型コロナウイルスに関するご質問やご相談には、担当看護師がお電話で対応致しますので遠慮なくご連絡ください。

※PCR検査を希望される方は職員の指示なくクリニックの建物や敷地内に立ち入ってはけません。感染が疑われる方のPCR検査はクリニックとは別の場所でドライブスルー方式で検体採取を行ないます。まずはお電話(TEL 029-212-5630)でご相談ください。

<<新型コロナウイルスワクチン>>

医療法人社団どんぐり会は医療従事者接種の連携型接種医療機関、住民接種の際の基本接種医療機関として接種業務を担当しています。

3~4 月は消防救急と地域の診療所の方々に接種を行なっています。5 月から歯科・薬局・助産院の従事者の皆さんへの接種を開始し、その後はご高齢者の方々を皮切りに段階的に接種対象者が拡大されるのにあわせて、当院がかりつけではない方も含む 16 歳以上の全年齢の住民の方々を対象に接種を担当します。

新型コロナウイルスのワクチンは現在小児への治験がすすめられています。15 歳以下のお子さんが接種対象となる日もやがてくるでしょう。それまでは、私たち大人が、罹らない&子どもにうつさないことで、子ども達を守り抜くことが必要です。

<<海外渡航者新型コロナウイルス検査センターTeCOT>>

国際的な人の往来が部分的・段階的に再開される中、渡航先での入国・ビジネス活動のため、出国前の新型コロナウイルス PCR 検査の陰性証明が必要となることがあります。ビジネス渡航者が渡航先国の要求に応じた PCR 検査等が可能な医療機関を予約し、陰性証明を円滑に取得できるよう支援する「海外渡航者新型コロナウイルス検査センター（英語呼称：COVID-19 Testing Center for Overseas Travelers 略称：TeCOT）」を経済産業省が運用しています。

<https://www.tecot.go.jp>

那珂キッズクリニック小児科は TeCOT 登録医療機関として小児及び成人の新型コロナウイルス PCR 検査と陰性証明書の発行を行なっています。

新型コロナウイルスの渡航前陰性検査が必要な方は、まずはお電話でご相談ください。

TEL 029-212-5630 <http://www.naka-kids.com>

中国大使館総領事館からの指定をうけて3月29日から中国渡航についても対応をはじめました。県央県北地域では那珂キッズクリニック小児科が唯一の中国渡航対応医療機関です。詳しくは中国大使館 HP をご参照ください。

<<アニマルパスウェイが出来上がりました！>>

すこし遅くなりましたが、十勝歯科医師会（北海道帯広市）から、使用済み歯ブラシを回収して交通事故で命を落とすエゾリスを救うための小動物専用の歩道橋（アニマルパスウェイ）建設するプロジェクトが完了した旨のご報告が届きました。

ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

医療法人社団どんぐり会は今後もライオン株式会社のパブラシリサイクルプログラム TerraCycle 登録施設として引き続き使用済み歯ブラシの回収をおこないます。みなさんのご家庭でお使いになられた家庭用の使用済み歯ブラシをご持参ください（使い捨て歯ブラシは対象外です）。



お問い合わせやご相談は

那珂キッズクリニック小児科
病児の保育しろやぎさんのポシェット
Tel : 090-2542-5630

流行状況（2021 3/1~3/31 検査陽性者のみ）

対象：当院受診者

	市内		市外	
	未就学児	就学児	未就学児	就学児
溶連菌	12	11	21	21
アデノウイルス	0	0	1	0
水痘	0	0	0	1

“しろやぎさんのお部屋から”

絵本の紹介

①ちよちよ・ぎゅ

赤ちゃんはまだ視力は発達していませんが、触覚は五感の中でも最も早く発達します。赤ちゃんの喜びスキンシップを集めた絵本です。



②ガチャガチャぼん！

おうちでガチャガチャ遊びができる絵本。「ガチャガチャぼん！」のリフレインが小さいお子さんには好評です。いろいろなモノが出てくるので、親子で会話が弾みます。



“病気の時でも楽しく”

生まれたての赤ちゃんは、お母さんから胎内で感染に対する免疫をもらって生まれてくる為、新生児期~乳児期早期はお熱を出すことは稀です。生後6ヶ月~1歳を過ぎた頃から、お友だちなど他者との接触が増えるのに伴い様々な感染症と遭遇する機会も増えて、お熱を出したり風邪をひいたりすることが増えてきます。

生後2か月頃から予防接種がスタートするのも、罹ると重症になりやすい病気を未然に防ぐことが目的です。保育園・幼稚園入園までに、スケジュール通りにしっかりとワクチンを接種しておきましょう。また、入園前に病児保育のご利用登録をしておかれると安心ですね。

しろやぎさんのポシェットは、お子さんがお熱をだしたり、怪我をしたり、体調を崩して保育園や幼稚園や小学校をお休みしなくてはならない時にお父さんお母さんにかわってお子さんをお預かりする場所です。

対象は生後8週から小学校3年生までのお子さんです。未就園のお子さんも、様々な障害や基礎疾患をお持ちのお子さんもご利用いただけます。ご相談ください。

